

様式 1

研究報告書（平成 27 年度）

提出者 知足章宏

提出年月日 平成 28 年 4 月 22 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 「中国における環境汚染の政治経済的考察：環境NGOの新たな取組みと直面する課題」

英文 The Political Economy of the Environmental Pollution in China: Environmental NGOs challenge and the problem.

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

中国では、住民の健康被害を伴う深刻な公害・環境汚染を発生・継続させる要因がローカル・グローバル双方の政治・経済・社会構造により形成されているが、一部の地域では、その閉鎖的な状況を政府との協働も視野に入れながら打破しようとする環境 NGO が少数ながらも台頭してきている。これら環境 NGO は、活動の制限や圧力など様々な制約下に置かれながらも、独自の現地調査・情報公開・情報共有などの手段を通じて汚染企業及び地方政府機関に対策を促す取り組みを行っている。

本研究「中国における環境汚染の政治経済的考察：環境 NGO の新たな取組みと直面する課題」は、中国における環境汚染に対する環境 NGO の活動内容・展開に注目しながら、その活動に対する政治・経済（企業）・法制度の対応・変容や、NGO の活動への阻害要因についても分析を進める。具体的には、環境 NGO の活動に関する実態調査に加え、情報公開・公衆参加に関連する政策・法・企業の対応など、近年の動向に着目する。また、中国における環境汚染をめぐる政治・経済・社会の動向と課題について、NGO を含めた多様なアクターの動向を含めて考察する。

具体的な研究対象・調査先として、北京市の環境 NGO によるプロジェクト「好空気保衛俠」などを対象に、環境汚染、大気汚染に対する市民・環境 NGO の活動展開と直面する課題について考察する。

【研究業績】 学会報告・論文など

①著書

知足章宏（2015）『中国環境汚染の政治経済学』昭和堂，208 頁。

②論文

知足章宏（2016）「中国における大気汚染と環境 NGO・環境ガバナンスー情報公開・対話の模索」『アジア・アフリカ研究』第 56 巻第 1 号，アジア・アフリカ研究所，pp.17-31。 査読有

Yuki Ogawa, Jean-Francois Mercure, Soocheol Lee, Hector Politt, Ken'ichi Matsumoto and Akihiro Chiashi (2015), Modeling the power sector in East Asia: economic and environmental impacts on the choice of the power source,

Soocheol Lee, Hector Pollitt, Seung-Joon Park ed. ,*Low-carbon, Sustainable Future in East Asia: Improving energy systems, taxation and policy cooperation*, Routledge, pp.63-72. 査読無し

③学会発表

知足章宏「環境汚染の構造的要因と課題：ローカル，グローバルな視点から」日本環境学会第41回研究発表会企画セッション「中国における環境ガバナンスの改善へ向けた課題と展望」第2報告，2015年6月21日，龍谷大学深草キャンパス

④翻訳

李群星（2015）「中国における水環境公益訴訟」北川秀樹・窪田順平編著『流域ガバナンスと中国の環境政策：日中の経験と知恵を持続可能な水利用にいかす』白桃書房，pp.161-173（原文は中国語）

董利民・梅徳平・叶樺・鄧保同（2015）「水環境保全へ向けた産業構造と体系の改革」北川秀樹・窪田順平編著『流域ガバナンスと中国の環境政策：日中の経験と知恵を持続可能な水利用にいかす』白桃書房，pp.225-238（原文は中国語）

⑤書評

知足章宏「北川秀樹編著『中国乾燥地の環境と開発－自然，生業と環境保全』成文堂，2015年」、『人間と環境』第42巻第1号，2016年，pp.93-94

⑥その他

知足章宏「東南アジア諸国との社会科学領域環境教育の発展へ向けた課題」『人間と環境』第42巻第1号，日本環境学会，2016年2月，pp.79-80

【成果の概要】(800字程度)

平成 27 年度春期には、KUASU 研究員としての研究成果を取りまとめた単著書籍として、『中国環境汚染の政治経済学』(昭和堂)を上梓した(5月発行)。本書は、平成 25 年度より KUASU 研究員として取り組んできた研究成果を取りまとめたものである。6月には、論文2編(中国語)の翻訳(所収:北川秀樹・窪田順平編著『流域ガバナンスと中国の環境政策―日中の経験と知恵を持続可能な水利用にいかす』白桃書房)を刊行した。また、共同研究プロジェクトの成果として、*Modeling the power sector in East Asia: economic and environmental impacts on the choice of the power source* (in Soocheol Lee, Hector Pollitt, Seung-Joon Park ed., *Low-carbon, Sustainable Future in East Asia: Improving energy systems, taxation and policy cooperation*, Routledge, pp.63-72, Yuki Ogawa らとの共著論文、2015年)を刊行した。

平成 27 年度の学会報告として、「環境汚染の構造的要因と課題:ローカル、グローバルな視点から」(日本環境学会第 41 回研究発表会企画セッション「中国における環境ガバナンスの改善へ向けた課題と展望」第 2 報告, 龍谷大学深草キャンパス、2015 年 6 月 21 日)を行った。また、国際ワークショップ報告として、Chiashi Akihiro "Industrial Pollution in Japan: Lessons from 4 Pollution Cases" (中国の環境政策, 環境訴訟における公衆参加に関する日中国際ワークショップ, Tomoikiso, Ryukoku University, 2015 年 12 月 24 日)を行った。

平成 28 年 1 月には、27 年度の研究成果として、論文「中国における大気汚染と環境 NGO・環境ガバナンス―情報公開・対話の模索」(所収:『アジア・アフリカ研究』第 56 巻第 1 号, pp.17-31, アジア・アフリカ研究所, 査読有り)を刊行した。

平成 28 年 3 月には、中国北京市・河北省石家荘市、湖南省長沙市・常德市石門県、臨武県で環境 NGO、弁護士事務所、鉱山開発と環境汚染の現場などの現地調査を行った。

以上のように、平成 27 年度は単著の刊行、学会・国際ワークショップにおける発表、論文、翻訳など研究成果を多数公表することができた。特に、単著の出版によって KUASU 研究員としてのこれまでの成果を発表することができた。

【通信欄】